



ZENFUREN

全附P連PTA研修会 第5回全国大会

2014年10月3・4日

号外

全国国立大学附属学校連盟
全国国立大学附属学校 PTA 連合会
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29
虎ノ門産業ビル 8F
TEL : 03-3591-2091
FAX : 03-3591-2092

リーダーズセミナー

第1部 教育再生実行本部の提言 “結果の平等主義から脱却 社会状況や子どもの実態に応じて、学校制度を多様化・複線化”

第2部 国立大学のミッション再定義後、附属学校園の新たな役割



大会1日目 11:00~12:30、センチュリールーム Aにおいて、管理職の先生方、各 PTA や後援会組織の幹部の方々が集い、リーダーズセミナーが2部構成で開催されました。

大会要項では第一部の基調講演は衆議院議員の萩生田光一氏でしたが、直前に遠藤利明氏に変更になりました。遠藤氏は、山形県出身で、山形の附属中学校のOBでもあります。第1次安倍内閣では文部副大臣を、自民党内でも教育再生実行本部の本部長も務められ、日本の教育再生のキーマンの一人です。安倍内閣の政策の柱は、経済再生と教育再生が要で、これまでのように教育改革を提言だけで終わらせず、“実行”にこだわっていくということを強調されていました。

安倍総理とシンガポールに訪れた時、現地の方から、戦後の日本の教育を参考にしてきたが現状の、結果の平等主義には魅力がないと言われたそうです。そこで、結果の平等主義を脱却し、状況に応じて学校制度を多様化・複線化していくことが、今後の大きな方針になります。①単線的な6・3・3制から多様な選択が可能な複線化、②ICTの積極的な導入、③一発勝負的な大学受験の改革、TOEFL点数などを受験資格にすることなどを検討、④グローバル人材の育成、英語教育を読み書き重視から、“聞く・話す・読む・書く”の



香川大学教育学部附属坂出小学校
PTA 神余智夫 取材



地域のリーダーの方々だけあって、堅い講義内容でも真剣に聞き入っていました。

4分野を重視、⑤大学内の改革、学生の受験燃え尽き症候群の防止や学部流動化、別大学への移動の流動化、⑥教員養成の充実、教師インターシップの導入などが検討されています。また、地域の方々にも学校に入ってもらい、活性化していきたい、そして、附属の先生方は地域のリーダーとして活躍してもらいたい、とのことでした。

第2部は、文部科学省高等教育局の佐藤弘毅氏の基調講演でした。現在の教育の課題について、豊富な資料をもとに説明していただきました。

国立大学改革プランにおいて、ミッションの再定義が終わり、第3期中期目標に向けて、改革プランを実践中の段階です。そして、教育大学院の設置事例なども紹介していただきました。附属学校の取り組みとしては、研究開発学校の指定や、スーパーサイエンスハイスクール・スーパーグローバルハイスクール・スーパー食育スクールなどで、存在意義が高まっているようです。

その他にも、①土曜日教育ボランティア運動、②学力の世界比較で高い成果が出ている件、③言語活動の充実、④子どもの貧困対策について、⑤道徳について、など幅広く解説していただきました。1部と2部を通じ、様々なテーマを抱える私たちのPTA活動にも、“多様化と複線化”という視点を取り入れて活動することが重要になってくると感じました。